

環境白書の刊行にあたって



私たちは今、大気や水の汚染、廃棄物対策といった従来の環境問題に加えて、地球温暖化や生物多様性の損失といった地球規模の環境問題に対しても積極的に取り組むことが求められています。

こうした環境問題は、一人一人の日々の暮らしや社会の様々な分野の事業活動と密接に関連した問題でもあり、その解決には、行政だけでなく県民や事業者が、日々の暮らしの在り方や事業活動を環境に配慮した方向へ変えていく努力が大切です。

県では、近年の環境を取り巻く状況の変化に対応するべく、本県環境施策の拠り所となる「環境総合計画」を本年3月に改定し、県民、事業者、行政等の各主体が「協働」して、環境負荷の少ない「循環」を基調とした持続可能な社会、そして自然と人とが「共生」する社会を構築することを目指し、様々な取組を行っています。

地球温暖化防止については、県民の皆さんに環境保全に取り組んでいただくため、家庭版・学校版・地域版・事業者版の4つの「いしかわ版環境 ISO」など本県独自の取組を進めてきました。なかでも、家庭版環境 ISO には約7万4千家庭に取り組んでいただいています。令和7年度までに12万家庭とする目標の達成に向けて、今年度より運用を開始した、日々の省エネ、節電効果を「見える化」するスマートフォン用アプリケーションを活用し、裾野の拡大を図っています。

生物多様性の確保については、里山里海の利用保全や積極的な種の保存と適切な野生動物の保護管理などを進めてきました。とりわけ、本県にもゆかりが深いライチョウについては、現在、自然繁殖に取り組んでいるところであり、今後とも、飼育繁殖技術の確立に積極的に取り組み、種の保存に貢献していきたいと考えています。

また、循環型社会の形成に向けて、食品ロスの削減に積極的に取り組んでいただく店舗を「美味しいいしかわ食べ切り協力店」として登録することとし、これまで1,200を超える店舗に登録をいただいたところです。引き続き、事業者や県民の皆様のご協力をいただきながら、食品ロスの削減をはじめ、循環型社会の構築に向けて取り組んでいきます。

この白書は、環境の現状や課題、令和元年度における施策の実施状況などをまとめたものです。本書が、環境に対する県民の皆様のご理解を深めていただく一助となることを願いますとともに、各種の取組について積極的なご意見、ご提言、そして、ご参画を賜れば幸いに存じます。

令和2年9月

石川県知事 谷本 正憲